



～地域とともにある学校をめざして～

# 鯨コミ

R6年度 CS通信No.8 R6.10.3



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

## 「白八幡宮大祭学習会」(舞戸小全学年)(9/17)



「白八幡宮大祭学習会」の講師は、総括学芸員の中田書矢氏と田中町町内会の皆さんです。

高学年の学習会では、最初、女子が鉦をたたき、男子は、男の子の踊り「チャンチャレンコ」を踊りました。「チャンチャレンコ」を踊ったことのある男子3名が、お手本になって踊りました。

次に、男子が鉦をたたき、女子は、女の子の踊り「夜神楽」を踊りました。町内会の講師の先生を先頭に隊列を組んで繰り返し踊ったので、すぐに、上手に踊ることができるようになりました。

子どもたちに感想を聞くと、「鉦のタイミングが合わなくて難しかった。」「踊りは簡単そうに見えたけど、踊ってみると難しかった。」

「踊りに使う道具のことが良く分かった。」と話していました。

来年、実施される白八幡宮大祭では、たくさんの子どもの活躍が期待できそうです。

## 「学校支援ボランティアの協力でミシン学習」 (西海小第6学年)(9/17)



このミシン学習には、西海小学校担当の地域学校協働活動推進員の工藤律子さんの声かけで8名の学校支援ボランティアが集まりました。

学校支援ボランティアの皆さんは、各グループに入り、進み具合に合わせて支援を行いました。

手縫いの作業の時は、やり方をやってみせて、わかりやすく丁寧に教えていました。

ミシン縫いの時は、1台のミシンにボランティアの皆さんが一人一人ついて、安全を確かめながら操作させていました。

担任の先生は、

「一人一人の進み具合が違うので、ボランティアが入ると、進み具合に合わせて指導できる。」

「ミシンは、複数台あるので、トラブルが起きた時に、すぐに対応できる。」

と、話していました。

## 「鯨ヶ沢中教員による外国語乗り入れ授業」 (舞戸小第6学年)(10/1)



鯨ヶ沢中学校英語担当の斉藤拓誠先生が、夏休みの思い出を伝え合うことを最終目標にローレン先生とTTを組んで6年生の授業をしました。

二人の息の合った英会話を取り入れた授業は、とても楽しく、わかりやすい授業となりました。

子どもたちは、実際に夏休みにどこへ行って、何をしたのか(楽しんだのか、食べたのか等)をペアになって話し合い、最後は、目標通りに、一人一人が、みんなの前でしっかりと発表できました。

斉藤先生による外国語乗り入れ授業は、中学校入学時に小学校とのギャップに悩む「中1ギャップ」への対策としても取り組んでいます。